（一）　第452号　昭和27年9月25日第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎日曜日発行】　昭和31(1956)年11月4日（日）

ヤマ
第六

応募数

はなぜ政府は（警察）の力をかりてまで強制（測量）をしようとするのか（警官）などたくさん来ればピケ隊とけんかになるのは火を見るもいやだ

▲今回の問題で特に間違いの多かったのは立川と砂川の違いで、砂の

▲六名の正解者の中から監事立会のもとに抽せんの結果規定により五名を正解者とし、洩れた一名については残念賞を贈ることになりました。

村上　雅（港務・船渠）

▲残念賞　川田　又幸（三川・内機）

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人　平島敏治
三鉱労組印刷工場

書記局便り

廿九日　教宣部長会議
卅日　大地評執行委員会
卅一日　保安検討会
卅一日　主婦会支部長会議
一日　スト規制法反対署名運動

保安優先はどうした　また四山で落盤死

会社に厳重抗議の申入れする

生産の上昇とともに、三池炭鉱では変災が相ついで起り、十月は四名の犠牲者を出し、災害は四月―九月の実績に比較し五〇％強の増加となっている。このままでは犠牲者が増すのみであるから、保安優先確保をはっきりさせるべく、宮川組合長以下三役全員が本社に、保安についての抗議申入れを十月二十九日行った。会社側は所長、人事部長、鉱務部長、労働課長、代理などが出席し、申入れの内容については十分尊重し、根本的な対策をたてるべく各ヤマの責任者をよんでいると回答した。

申入書

保安の優先確保につきましては今日まで数次に及び貴方より文書又は口頭をもつて確約を得ているところでありますが、最近相次いで重要災害の発生を見ましたことは誠に遺憾に堪えません。

当方に於いても、もとより貴方が保安を軽視された結果と即断するものではありませんが、最近の事故発生の傾向は数学的に見ましても急激な上昇線を辿つておりますし、このカーブが石炭の需要増とそれに相応じて実施される貴方の増産計画に比例していることも御承知の通り否めない事実であります。

当方としましても保安や労働条件の低下を来さず、強権的措置を伴うことなく生産が向上することに対しては故意にこれを拒む所存は毛頭ありませんが、事実をもつて証明される災害の現状についてはこの対策ど共に重大なる関心を有するものであります。

殊に去る八月中央に於いて締結されました保安機構に関する協定書や、九月十日付で確認されました附属諒解事項等につきましてもこれが空文に終ることなく一日も早く適用され且つ充実されんことを期待しておりますので、併せて貴方の具体的な見解を求めたく、保安確保に関する特段の御留意を促し対策の促進を申入れます。

以上

山下氏も死亡

去る十月十九日三川鉱での落盤変災で一瞬にして死亡二、重軽傷三名の犠牲者を出したことは既報の通りでありますが、この中で両大腿骨々折、腹部打撲の重傷で三川分院に収容手当中の山下了氏（保安係員、34、小浜町）は、その後容態が次第に悪化、手当のかいなくついに二十六日午前一時四十五分せい去されました。

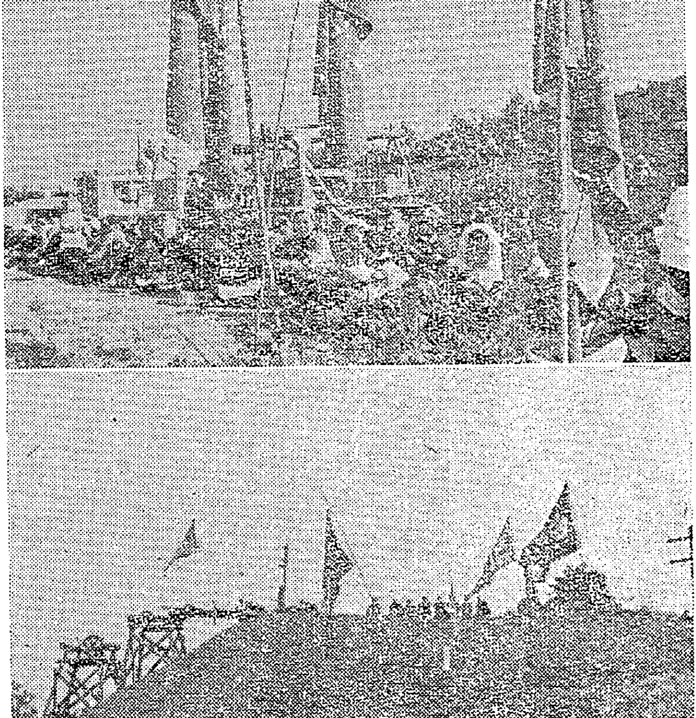
またも落盤で死亡

十九日突発した三川鉱変災は異常なショックを与えたが、このよふんさめやらぬ十月二十七日、三川鉱変災の後を追うように四山鉱でも落盤、犠牲者一名を出す変災が勃発。このたび重なる変災の報に接して組合員の間ではあらためて保安の再点検がするどくさけばれている。

変災現場は四山鉱六〇〇米東三御西四半片払、二十七日午後三時二十五分ごろ同地でむら上吉春氏（採炭工、47、四山社宅福六四棟の三）が採炭作業中に突如落盤（高さ〇・七米、巾一・七米、長さ六・七五米）による罹災、前頭骨、顔面骨複雑骨折（脳損傷）の重傷を受け十五時五十分ついに死亡された。

なお社葬が二十九日午後一時三十分より万田鉱友クラブで山下氏、二十九日午後一時三十分より四山講堂でむら上氏とそれぞれしめやかに行われた。

× ×


【写真】上はブルトーザーを囲んで坐り込む主婦たち。
下は京の上の捲上機にピケを張る友誼支援団体

前進

十周年式典を迎えて

十一月三日、文化の日は国の祝祭日として古い歴史を承けついでいるが、わが三鉱労組もこの日をぼくして組合結成十周年の記念式典を挙げることゝなつた。実際の記念日からは丁度九カ月遅れる訳であるが、意義あるこの式典と、各支部、各地域の諸行事が錦秋に一段の精彩を添えることを祈つてやまない。

思えば十年ひとむかしと言うものの、この中に記録された数々の体験は恐らく何十年の歴史に匹敵することであろう。それは組織の変遷を初め、闘争や生産や、政治面に於て応援にいとまない脱皮の歴史である。そして組合をこの様に変貌せしめた外からの力として占領政策の変化と政府並びに資本家の労働組合対策の変化を忘れる訳にはいかない。

× ×

終戦の年の十月十一日、GHQは憲法改正、婦人参政権の実施と共に労働組合育成を指示し、この指示に基いて全国一齊に組合が結成されたことは周知のところであるが、三池に於ては二十年十二月十六日に三川坑労働組合が結成されたのを皮切りに各坑所に結成準備会が持たれ、二十一年一月四日には夫々に組合結成式が持たれたしかも闘争の第一頁を飾る三川坑労組のストライキが二十一年一月三日に火ぶたを切つているのも記録さるべき事件の一つであろう。

それからの十年間には二月三日の三鉱労組単一組織の確立は言うに及ばず二十七年の六十三日ストや、想い出多い企業整備、長計闘争、炭婦協結成、到達闘争など延二百三十日に及ぶストライキを含んだ数知れない闘いの歴史を経て来た、しかもこの間に尊い生産の犠牲者として涙と共に送つた同僚は二七九名、重軽傷者四万を数えている。この十年の記憶と共にその名を刻まれねばならぬ人々である。

× ×

十年後の今日われわれは兎も角も炭労随一の組合員を擁し、闘う組合としての讃辞を受けている。そして文字通り炭労の中核となり全日本の労働組合の前衛として闘う誇りを持つている。しかしこの自信と共に自戒しなければならないことがはるかに多いことも忘れてはならない。今日まで多くの先輩や同志達の血と涙の努力にも拘らず、われわれの闘いは前進譜のみではなかつた。占領軍の強圧もあつたし、内部的にも必ずしも鉄壁の団結と言えない弱さもあつたそのような幾多の試錬に耐えて今日の組織を築き上げて来たのであるがそれだけに十周年を迎えた今こそ緊褌一番の時であろう。

十年史の巻頭に寄せられた向坂教授はこの点につき特に懇切な注意を与えられている。即ち例を巨大な岩壁に引き、そのすきまに溜つた水が氷結しては解け、解けてはまた厳冬に凍る幾星霜の間に、目にもつかなかつたささやかな亀裂の風化作用から或る決定的な一瞬、さしもの巨岩が転落して山峡の小路に横たわつている姿を説かれているが、われわれの組合活動の中にはこの警告を絶えず思い起しておかねばならない現実があることを痛感するものである。

ここに光輝ある十年を心から祝福すると共にこの十年の上に更に栄ある将来を築き上げる為に今日を前進のスタートにしたい。

× ×

市側"作業強行"のハラ

飯塚オートレース　坐り込みで対立

飯塚市ではいまオートレース場設置をめぐつて大きな紛争を巻き起している。労組や革新諸団体の強い反対にもかかわらず工事を主張し、事実上工事は去月十九日からはじまつている。いま焦点になつているのはコースに当る用水池をつぶすという市側と、埋めては困るという地元農民や労組の対立であり、九州の砂川を思わせる緊迫した様相を示してきた。現地ではブルトーザーを囲み坐込みが続行されている。

以下は大地評濱田事務局長の寄せられた現地ルポである。

赤旗で埋まる丘

二十五日福岡県総評の緊急要請で直ちに飯塚に急行した。

新飯塚についたのが午後七時、既にマツクラ。タクシーを止めて、「オートレース工事現場」といつたら行かぬとことわられた。それが三台呼び止めてそうだから、これはスゴイことになつているのではないかと一寸心細くなつて、嘉飯地協をたづねると、市で交渉が今行われているということで、市役所に行つて見ると、市の吏員さんが皆んな菜ツパ服に身をかためている。庁舎内外には何百台もの自転車があり、その中に自動車も何台かある。まるで南方作戦の銀輪部隊本部というところ。

奴等は敵だ

受付子と応待するのに、他の市役所の受付子と異つた体質が感ぜられ、色よい取次をしてくれない。そこで庁舎外をながめて見たらニユースカーが一台がいる。近寄つて見ると日鉄二瀬ので、運転手にいろいろと模様を聞く「現地は緊張したふん囲気にはあるが、まだ紛争までには行つていない」という、そこでさつきからの問題について「ここの市労の態度はどんなですか」と聴いてみた。「市役所ですが、労働組合はなくこ奴等は敵ですよ」「敵」と反スウして、現地に急行。

鯰田への道路上に赤旗が立つている。そこで自動車を降りて山道を約十五分登ると、夜の静かな中に旗のはためく音がまず聴える。五分ほどして天幕があり、人の往来がはげしく行われている。

あきれる市長の態度

栗原嘉飯地協事務局長は〃市長はオートレース場設置には反対するということを、第一条件で組合に申し入れ、そのことによつて当選している。それが舌の根もかわかぬ今日設置のたて役者で、しかも市の予算の三分の一をこれに投ずるということ〃など説明してくれた。それが終つて見廻すと山の向う、谷の向うという具合に、各所にタキ火が見え、それが各地から来たピケ隊だということを聞いた。

冷えこんだ一夜があけると、全く驚いた、広い丘が赤旗でうまつている。昨夜、まず一番に聞いたのが旗のハタメク音だつたが、さもあらんと思つた。

繰込むピケ隊

今日は決裂が予想され、朝から戦術会議がもたれる。ニユース・カーから指示が流れる。一応の配置が決まる。新聞記者やラジオ記者が早朝からやつてくる。午前八時カツキリに鯰田三坑社宅のスピーカーが労働歌を威勢よく流し、炭婦協の動員を呼びかける。その頃になると、二瀬も山田も飯塚もとドンドン炭婦協が集結を始め、ブルトーザーや、問題の池の周囲は完全にピケで固められる。

イセイのいゝ五十才位のオツサンが元気づいて、盛んに指示している。組合の幹部が「そんなことは実行委員長がやるから」というと「俺は実行委員長より上だ」といつて張切つた一コマもあつた。

地協事務局長は負傷

十時四十分交渉は決裂した、という報が入り、まもなく滝井、多賀谷代議士や地元県議連が引き揚げてきた。

午後三時三十分山の上で看視していた農民百四、五十名がやつてくるという通知があり、待機していると市長と議長が「ピケ隊の立ち去り」を要請した。

二十二日の市側の暴力によつて負傷した、栗原事務局長が杖をついてこれに対し、地裁の判決が出るまでは断じて水源地帯を守ると回答＝川スジの交渉はどうして、威勢がいゝと感心した＝

皆んなの団結に手出しが出来ず、イレズミの親分さん達も周囲に鉄条網を張つたのみで、引き揚げていつた。

鯰田の丘の上には二十六日のまゝの姿で今日もまだ斗いが続いている。

実結ぶ同志支援

勝利に輝く京の上労組

不当解雇、配置転換反対と勤労主任の追放で五カ月間の長期闘争をつづけていた京の上炭鉱労働組合は、組合員の結束と主婦会、友誼各単産の支援により、中小鉱としての輝かしい勝利を得た。

十月十五日より無期限ストに突入し、第二組合員の説得と会社に対する大衆抗議は既報の通りであるが、二十一日には第二組合より第一組合へ十一名が復帰し、これを歓迎する感激的な復帰大会が要求貫徹総決起大会となり闘争意欲はいよいよもりあがつた。

つづいて翌二十一日には、ストの効果をあげるため、組合は第一組合員の入坑阻止を目的に、第二組合への闘争協力と復帰をよびかけたが、これは一時激突しそうに見えたので、双方より代表を出して話し合うとともに臨時夫（約二〇名）にも呼びかけを行い、炭婦協と臨時夫との懇談会をもつた結果臨時夫もあらゆる面で苦しめられているので、われわれも臨時夫の組合をつくろうという意志の統一がなされた。

廣橋を配置換え

第二組合員の復帰とともに、第一組合の団結はますます固くなり、完全に分裂支配に失敗した会社は無期限スト突入以来十日目、二十五日午前十時より団交を開き、全面的に組合の要求を認めるところとなつた。妥結の内容は

一、配置転換四名は即時もとに帰し、配転期間の賃金差額は、別の名目で支払う。

二、ストによる賃金カツト分埋め合わせその他を含め、終戦処理として一括二十万円を支出する（人当約三千円）

三、組合が要求した「広橋」の処分（首を切る要求）は一カ月以内に配置換えをする。

四、会社が告訴したものは全部取下げる

五、江崎松次氏の取扱いは、他の捲方に就職させ、爾後において原職（二坑）捲方に復帰する。

組合員大会を開きこれを満場一致確認ピケを解いた。

この結果、この内容が承認されついにストライキ突入後九日目に平常作業に復帰することとなつたのである。